



まつざき淑子の議会報告

<http://matsuzakiyoshiko.seikatsusha.me/>

【一般質問】

◇狛江のみどりを守るために

狛江市の樹木管理は、市道の街路樹が都市建設部、それ以外は環境部で、基本的には年1回の剪定がおこなわれています。

根川通りの桜は2015年度に163本が樹木診断を受け、2021年度までに36本が植え替え予定です。樹木に関する市民要望は2018年度で約130件、そのうち、事業者委託は52件で費用は16,855,246円！とのこと。昨年の台風で倒木の危険性がある樹木も多く、樹齢が上がっている中、樹木管理計画の策定を提案。樹木医診断や市民の声を計画に反映することを要望しました。また市民の投稿写真や狛江の花の見ごろ情報、アドプト活動情報、市から樹木管理計画や、剪定・伐採情報、落葉掃きボランティア募集など、緑に関する情報交換の場をホームページやSNSなどにつくることを提案しました。

◇子ども自身が育つ力を伸ばす

保育園・学童・部活動で、いかに子どもたちがのびのびと出来るか、子どもの自己肯定感を育み、子ども自身が育つ場所と時間をどこまで提供できるか、狛江市の取り組みと成果を問いました。

①保育園の質を保ち、利用者の選択に資するための第三者評価。開園時と以降は3年に一回の受審が奨励され、結果は東京都のホームページ（とうきょう福祉ナビゲーションで検索）で公表。しかし、市は公立4園以外は結果の確認をしていないとのことなので、全園の確認を要望しました。深刻化している現場での人員不足、保育士不足に対して、狛江市は家賃補助、就職紹介「福祉のしごと相談・面接会」を行っているとのことでしたが、

潜在保育士や市民が働く意欲が湧くような給与体系と地位の保障が必要です。

②保育園待機児増とともに、就学後の学童保育所の待機児が増加。狛江市の学童保育所等（総称して学童クラブ）は、形態・保育時間がさまざまです。放課後クラブは自由出入りのKoKoA（登録制）と一緒に校庭など使用。雨の日は体育館使用が原則だが、行事がある場合は学校側との交渉で使える教室に限られる、保護者会などでKoKoAの人数が増えた場合や、行事で制限がある場合など、学校側の理解に頼るのでは安心できません。子どもたちの過ごす環境を第一に考え、図書室や教室の開放を要望します。また、支援員は有資格者を含む3~6人体制の配置とのこと。児童の見守りは安全優先になるとは思いますが、子どもたちが伸びやかに過ごせるよう、研修などでの理解を求めます。

③中学校の先生の働き方改革と部活動について

2018年、部活動に指導員を導入、練習時間を規定するなど、中学校教職員の負担軽減を目指した「学校の働き方改革」が狛江市でも策定され、練習時間が規定されました。しかし、大会成績の集団目標と勉学との両立に揺れ、生活時間の確保も難しい現状があります。教育部長から「目標、指導方針・内容や方法などについて、生徒が理解できるように指導者が適切に伝えとともに、必要に応じて、指導者、生徒、保護者の間で、意見交流を行う機会を設ける、部活動の本来の目的である学習意欲の向上や責任感、連帯感の向上など、学校教育が目指す資質・能力の育成につなげていくことを大切にす」との答弁がありました。